

平成27年度学校自己評価システムシート(秀明八千代高等学校)

目指す学校像	常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする
--------	------------------------------------

重点目標	1 父母の教育信託に応える教育を行う。
	2 生徒に学びを与え、確かな学力の定着を図る。
	3 生活指導を徹底する。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価(3月31日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	創立者の教育理念を理解し魅力溢れる学校づくりに専念するため以下の項目について、より一層徹底する必要がある。 ①千日修業の目的を理解させ「秀明エリート」を育てる。 ②学校と家庭との「共育」「協育」を進める。 ③希望する進路が達成できるよう指導する。	学習指導の充実と志望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 「心の学習」の時間を設け、豊かな人間性を養う人物教育を行う。 父母会、授業公開を行い、学習面や生活面について、十分な話し合いの場を設ける。 志望大学の過去問題演習を行って、学力の伸長を図る。 面接や小論文の指導を学校全体で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 父母会、授業公開、三者面談の状況。「授業アンケート」結果の改善状況。 過去問題演習への取り組みと結果。 面接指導、小論文指導の結果。 進路実績。 	<ul style="list-style-type: none"> 父母会(3回)、授業公開(1回)、三者面談(3回)を実施し、多数の参加があった。 授業公開時の「授業アンケート」を検証し改善に努めた。 A O、推薦入試に向けて面接、小論文対策を積極的に実施した。 希望する進路が決定するように努め、上級学校への進学率は85%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度以上の参加を呼びかけ、学校と家庭の「共育」、「協育」を促進させる。 面接、小論文対策は組織的に計画的に指導する。 第一志望に合格できるよう、最後まで粘り強く指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 父母会、授業公開、三者面談を定期的に実施している。 父母の教育信託と期待に応えようと全教員が日々努力している。 家庭との連携を図り、学校と保護者ともに育てる体制が整っている。 「面倒見の良い学校」、「学力を伸ばす学校」として評価できる。 ホームページやメールなどのシステムを活用し、家庭への連絡や危機管理体制が確立されている。
2	生徒に学習する喜びを与え確かな学力の定着を図るために、以下の項目についてさらに推進する必要がある。 ①到達度に応じた教科指導力を身に付ける。 ②週末課題の定着とノート学習の推進。	授業の改善と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「大学入試問題正解」を購入し、教員自ら解くことにより指導教科の学力を身に付ける。 授業アンケートを実施し、改善方法を考え、実行する。 テーマを明確にし研修授業を行う。 毎週2回以上、他の教員の授業を見学し、記録をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試センター試験問題は全国の大学入試問題を分析し把握する。 年間5回の授業アンケートを実施。 年間2回以上の研修授業を行う。 毎週、他の教員の授業を見学し、授業参観の記録のノートを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「大学入試問題正解」などを利用し、指導教科の学力向上に努めた。 「授業アンケート」を5回実施し、授業の改善に努めた。 研修授業を年間2回以上実施し、指導力の向上に努めた。 年間50コマ以上の授業を見学し、記録に残した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も「大学入試問題正解」などを利用し、指導教科の学力向上に努める。 次年度も年5回の授業アンケートを実施し、その結果をもとに授業の質を層向上させる。 様々な教科の授業参観を行い、授業技術を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員自身が過去の入試問題を解き、指導教科の研鑽に励んでいる。 年間に5回の授業アンケートが実施されその結果に基づき授業の改善がされている。 様々な教科の授業を参観することは、より良い授業と指導力の向上に効果的である。
	より多くの生徒を積極的に資格試験に挑戦させ、上位級を取得させる必要がある。	資格試験	<ul style="list-style-type: none"> 英検は、放課後等を活用して指導を強化するとともに過去問題演習を行って、全員を上位級に挑戦させる。 漢検は、学力を見極めたうえで、適切な級を受験させ、その多くが級を取得するよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 英検、漢検への取り組みと取得状況の検証をする。 その他資格試験の結果。 	<ul style="list-style-type: none"> 英検では、過去問題演習を行い、90%の生徒が上位級に挑戦した。 漢検では、学力を見極めたうえで95%以上の生徒が受験した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も学年全体で組織的に対策を行い、最後まで粘り強く取り組むよう指導し、合格させる。 数検やP検にも多くの生徒が受験するよう学年集会、HRで積極的に呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格試験に積極的に挑戦させている。 過去対策が徹底している。特に学年で組織的に指導している点が高い。
3	学校生活をよりよくするために以下の各項目についての指導を徹底する必要がある。 ①基本的な生活習慣の確立 ②5つの約束の厳守 ③「心の学習」の充実 ④安全管理の徹底	生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 頭髮・身だしなみの指導は、学年ごとに指導するとともに、全教員が一体になって行う。 生活アンケートや面談の実施によりいじめの防止に努める。 「善いこと悪いこと」「許せることと許せないこと」の区別をきちんと理解させる。 新聞記事を事例に、正しい判断力や思考力を身につけさせる。 各種訓練、講演会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髮検査は月1回、身だしなみの指導は随時実施。 生活アンケート、面談の実施状況。 「心の学習」確認テストの実施と結果 新聞記事の活用状況 危機管理マニュアルに基づく各種訓練 サイバー犯罪、薬物乱用防止等の講演会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髮検査を学年集会で実施、身だしなみ指導は、毎朝の登校指導時から随時行なった。 「いじめゼロ宣言」を実践した。 担任との面談を毎週1回実施した。また、生活アンケートは月に1回以上実施した。 学期ごとに「心の学習」確認テストを実施しその定着を図った。 各種訓練、講演会を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会での頭髮検査を継続し、身だしなみ同様、随時指導する。「いじめゼロ宣言」を継続する。 次年度も新聞記事を活用し、正しい判断力を身に付けるよう指導する。 週1回以上の面談、月1回以上のアンケートを継続する。 次年度もサイバー犯罪、薬物乱用防止等講演会を実施し、正しい判断力、思考力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の挨拶、身だしなみの指導は学校全体で組織的に組織的に実施されており高く評価できる。 「いじめゼロ宣言」を実践し、迅速な対応をしている。 毎週の面談と毎月のアンケートにより、学習と生活上の問題の早期発見に努めてほしい。 危機管理マニュアルに基づいて各種訓練を実施している。 サイバー犯罪、薬物乱用防止の講演会を開き、より具体的に指導をしている。